

ノリ優良品種候補株の実用化に関する研究

有明海研究所

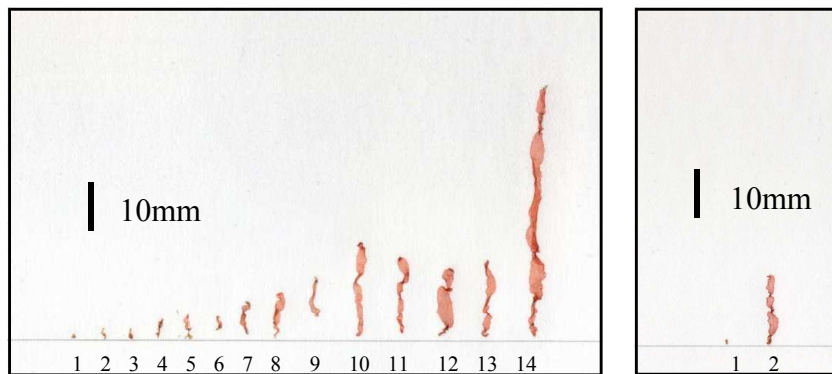
背景、目的

近年、海水温の上昇や栄養塩の減少など漁場環境が変化し、養殖期間の短縮や色落ちの発生などノリ養殖業に支障が出ています。この研究では、これらの環境変化に対応するため、これまで収集された株の中から高水温に耐性を持つ株や色落ちしにくい株を選び、新しい養殖品種としての可能性を探ることを目的としました。

成果の概要

(1) 高水温耐性品種の作出

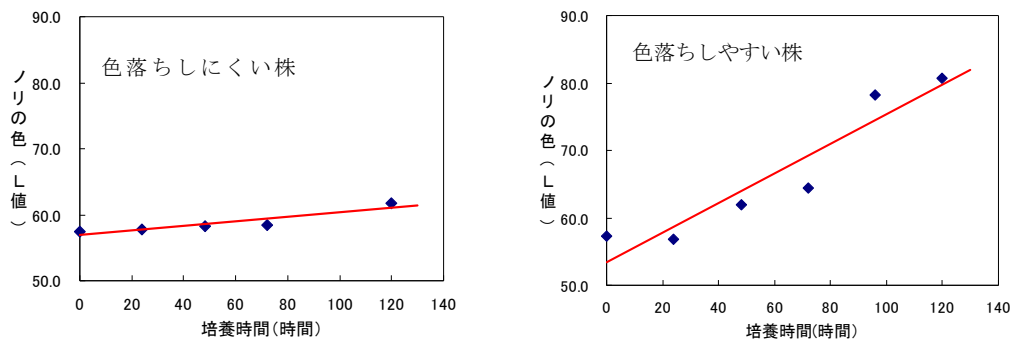
既存の養殖品種からプロトプラストを作成し、27℃の高温下で生残する個体の選抜を行いました。その結果4株の生残個体が得られたので、自家受精によりフリー系状体を単離しました。この4株から殻胞子を取り、24℃で培養することにより高水温に強い性質を持っているか検定しました。その結果、うち1株については対照品種の生残個体が2個体だったのに対して14個体と高い生残を示し、さらに、生長も対照品種と比較して良好だったことから、高水温に耐性を持った新品種として期待されます。



高水温選抜株(左)と対照品種(右)の耐性試験結果 (24℃、36日間培養)

(2) 低栄養耐性株の探索

21種類の野生株を低栄養海水中で培養し、色落ちが進行するスピードの遅いものを探索しました。その結果、養殖品種と比較して特に色落ちしにくい3株が得られました。



野生ノリの色落ち耐性試験結果

色彩色差計によるL値（明るさ）の計測結果を示しており、左は色落ちが遅く、右は色落ちが速いことを示しています。